

司書オススメ図書

あんない 特別篇

今号のテーマ

原田 マハを読む



© 森栄喜

平成29年11月 1日発行

近江八幡市立図書館

『あなたは、誰かの大切な人』 (講談社)

『あなたは、
誰かの
大切な人』

歳を重ねた女性が、かけがえのない人の存在に気付いた時をつづる、切なく温かい六つの物語。

『アノニム』 (KADOKAWA)

舞台は香港。ジャクソン・ボロック幻の傑作オークションが迫る中、アーティストを夢見る高校生、張英才に謎の集団「アノニム」からメッセージが届く。アノニム集団の魅力に魅せられ、気持ちよくラストがむかえられます。

『アノニム』

『暗幕のゲルニカ』（新潮社）

『暗幕の
ゲルニカ』

ナチスによるゲルニカ空爆をきっかけにピカソが描いた反戦のシンボルにして、20世紀を代表する絵画、ゲルニカ。アメリカがテロへの闘いを宣言した日、国連本部のロビーに飾られていた名画のタペストリーに暗幕がかけられた。誰が、何の目的で、

ゲルニカを隠したのか？

『生きるぼくら』（徳間書店）

いじめから引きこもるようになった麻生人生、24歳。母の失踪をきっかけに家から出た人生が向かったのは、蓼科の祖母の家だった。

人生は、そこで米づくりを通して生きる力を取り戻していく。食べること、人と関わることの喜びがひしひしと伝わってきます。

『生きる
ぼくら』

『いつも一緒に 犬と作家のものがたり』 (新潮社)

『いつも一緒に
犬と作家のものがたり』

この犬と生きていこう。そう決めた日のことを覚えている。19人の作家がつづる愛犬との出会い、日々の喜び、避けられない別れするとき。マハさんの愛犬、ラブラドルレトリバーのマチェックも登場します。著書『1分間だけ』につながった実話です。

『異邦人(いりびと)』 (PHP研究所)

京都の四季の移ろいとともに描かれる日本画がモチーフの作品。
若き女性画家の才能をめぐる人びとの「業」と複雑な人間関係を絡めながら、ラストへ向かいます。

『異邦人
(いりびと)』

『おいしい水』（岩波書店）

『おいしい水』

原田マハを読み進めているうちに
思いがけず出会ってしまった。まず、
画家の名前に反応してしまった。伊
庭靖子さん。国内外で高い評価を得
ている彼女は近江八幡と縁が深い。
祖父の伊庭伝次郎氏は仁科会会友
の画家で、江頭町出身である。

この本は、震災前の神戸が舞台。メールも携帯もない時
代、謎の多いカメラマンに恋した19歳の私の切ないラブス
トーリー。作品自体が光を纏っているように感じるのは、透
明感あふれる絵と、柔らかな文章のなせる技か。

作中のドアノーやアジェ、ロバート・フランク等の写真集
にも興味をそそられてしまう。たった85頁の短編が忘れら
れなくなってしまうのは、作家であり、キュレーターである作
者の仕掛けに、すっかりはまってしまったからだ。

誰もが通り過ぎたあの頃が、切なく蘇る一冊。

『カフーを待ちわびて』（宝島社）

『カフーを
待ちわびて』

カフーとは、沖縄、与那喜島の方言で、「幸せ」のこと。

雑貨商を営みながら淡々とした日々を送っていた主人公の友寄明青は、ある日「幸」と名乗る女性から思いがけない手紙を受け取ります。沖縄の小さな島で繰りひろげられる、やさしくてあたたかな恋の話。

『奇跡の人』（双葉社）

岩倉使節団の留学生として、渡米した去場安（さりば・あん）は、帰国後、日本にも女子教育を広めたいと理想に燃えていた。そこへ重い

障害をもつ名家の娘、介良（けら）れんを教育して欲しいとの手紙が届く。安とれんのふたりの長い闘いが始まる。

『奇跡の人』

『キネマの神様』（文藝春秋）

『キネマの
神様』

ギャンブル依存症の父に振り回されてきた母娘。がけっぷちの家族を救ったのは、“キネマの神様”でした。

まさに往年の名作映画を観るような、切なくも心地よい読後感。祈りのような物語です。

『サロメ』（文藝春秋）

『サロメ』

オスカー・ワイルドの戯曲「サロメ」の挿絵をご存じだろうか？妖艶で退廃的な香りのするこの絵を描いたのが若干18歳の画家ビアズリーだった。

本書は現代に生きる学芸員を通して、この「サロメ」の有名な一場面の挿絵の謎を探る、上質なアート・ミステリーです。絵画好きの方、推理小説通にもお勧めの一冊。

『総理の夫』 (実業之日本社)

『総理の夫』

相馬凜子は42歳で日本初の女性総理大臣に就任。税制改革、原発問題、と課題が累積する中、凜子は持前の正義感で突き進む。鳥類学者の夫の日記を通して描く、スピーディーかつコミカルな政界小説。

『竹宮恵子カレイドスコープ』
(新潮社)

50代のマンガ好きだった女性なら竹宮恵子は必須。当時、タブーとされた少年たちの同性愛や近親相姦、人種差別等の衝撃的なテーマを扱い、少女マンガ界に革命を起こしました。執筆50年記念のこの本は、竹宮ワールド全開。原田マハさんも影響を受けた一人だとか。お二人の特別対談が収録されています。

『竹宮恵子
カレイド
スコープ』

『太陽の棘』 (文藝春秋)

『太陽の棘』

表紙と裏表紙に、二枚の肖像画が描かれている。終戦直後の沖縄に派遣された米軍精神科医エドと、故郷である沖縄復興のために帰ってきた画家のタイラである。

ある日、エドは戦いの爪跡が残る町で若き画家たちの村「ニシムイ・ア

ートビレッジ」に辿りつき、運命的な出会いを果たす。

アメリカと沖縄、太平洋を隔ててそれぞれ生まれ、大きな戦争を体験した。占領するものされるもの、支配するものされるもの、彼らを分け隔てる現実がたくさんある中で、お互いが持つ美術を愛する心で深い絆が結ばれていく。

そんな中、米軍少佐がタイラの画家仲間を失明させる事件が起こる。エドは自身を抑えきれず少佐を殴ってしまう。エドの实在モデルと出会い、ニシムイの展覧会を見た著者が実話に基づいて紡いだ感動の物語。

『旅屋おかえり』（集英社）

『旅屋おかえり』

売れないタレント丘えりか。通称“おかえり”。唯一の仕事だったテレビの旅番組が打ち切られ、新たに始めた仕事が、人の代わりに旅をするという「旅屋」だった。“おかえり”の旅が依頼人を、そして読む人の心を温めてくれます。

『翼をください』（毎日新聞社）

第二次世界大戦前夜、国の軍事的な思惑に翻弄されながらも、平和のために飛ぶという信念を貫いたアメリカ人パイロット。純国産機で世界一周を目指す日本人パイロットたち。彼らの出会いが繋いだものとは。自由の翼を求め続けた人々の魂の物語。

『翼を
ください』

『デトロイト美術館の奇跡』 (新潮社)

『デトロイト
美術館の
奇跡』

ゴッホにセザンヌなど有名なコレクションを誇った美術館は市の財政難から存続の危機にさらされる。

全米を巻き込んだ論争は、セザンヌ夫人の絵画に魅せられた老人の思いから変わっていく。

『東京ホテル』 (ポプラ社)

『東京ホテル』

「東京ホテル」とは、自然と共生できる都市にという願いを込め、隅田川にホテルに見立てた青色LED「いのり星」を流すイベントで、人気作家が新たな東京物語を紡いでいる。原田マハさんの「ながれほし」は、天外孤独の流里が、彼氏との旅行で偶然音信不通の母親と再会し、イベントを機に親子の距離が縮まります。

『独立記念日』 (PHP研究所)

『独立記念日』

年齢も立場も違うけれど、それぞれ何かしらの悩みを抱えている女性たちが一歩踏み出す姿を描いた24の短編集。それぞれ独立したお話が少しずつ繋がっています。

『翔ぶ少女』 (ポプラ社)

1995年、大震災で両親を失った小学1年生のニケは、兄妹とともに、妻を亡くした医師ゼロ先生に助けられる。4人は親子として暮らすうちに、心の傷を癒していく。そんな中、ゼロ先生が持病で倒れてしまう。大切なものを二度と失くさないために、一体何ができるのか。逞しく生きる兄妹の成長物語。

『翔ぶ少女』

『#9(ナンバーナイン)』 (宝島社)

『#9(ナンバー
ナイン)』

類まれな審美眼を持つ、美術品販売員の真紅。仕事に挫折していたある日、とある中国人紳士に恋をする。渡された連絡先を頼りに上海へ。見知らぬ土地で、出会う魅力的な仲間たち。しかし、その先でも運命的な出会いが待っていた。

『星がひとつほしいとの祈り』 (実業之日本社)

主人公は、様々な年代の女性たち。母として、妻として、娘として、彼女たちが織りなす人生のワンシーン。それぞれに味わい深く、胸にそっと沁みいってくる短編集。

『星がひとつ
ほしいとの
祈り』

『本日は、お日柄もよく』（徳間書店）

『本日は、
お日柄もよく』

人前で話すのが大の苦手ということと葉は、結婚式で披露されたスピーチに衝撃を受ける。満場の人の心をわしづかみにしたそれは、“言葉のプロフェッショナル”久遠久美の祝辞だった。即弟子入りをしたこと葉の「言葉の世界」に変化は訪れるのか。

『まぐだら屋のマリア』

（幻冬舎）

老舗料亭で修行中だった紫紋は、偽装事件に巻き込まれて全てを失う。失意の果てに彼が辿りついたのは、食堂「まぐだら屋」。マリアと呼ばれる女性ひとりで営むその店は、重い過去を持つ人々が引き寄せられるように集い、心を休めていく場所だった。

『まぐだら屋の
マリア』

『楽園のキャンバス』 (新潮社)

『楽園の キャンバス』

美術館職員ティム・ブラウンは、ルソー作とされる名画の真贋を見極めよという極秘の依頼を受ける。

指定場所には、作品を熱く見つめる新進気鋭の研究者、早川織江がいた。原田マハさんの作品をどれから読もうか迷っている人にオススメ。

『ランウェイ・ビート』

(宝島社)

スーパーおしゃれな転校生ビートが、いじめられっこワンダのファッションを大改造。一躍クラスの人気者に。クラスを巻き込み、学校の枠を超え、現役高校生ファッションブランドを立ち上げる。しかし、ビートのデザインがライバル会社に盗まれてしまう。

『ランウェイ・ ビート』

【その他の著書】

| | |
|-----------------------|----------|
| 『いちまいの絵』 | 集英社 |
| 『一分間だけ』 | 宝島社 |
| 『いと 運命の子犬』 | 文藝春秋 |
| 『インディペンデンス・デイ』 | PHP研究所 |
| 『エール！3』 | 実業之日本社 |
| 『風のマジム』 | 講談社 |
| 『ギフト』 | イースト・プレス |
| 『恋のかたち、愛のいろ』 | 徳間書店 |
| 『恋の聖地』 | 新潮社 |
| 『ごめん』 | 講談社 |
| 『さいはての彼女』 | 角川書店 |
| 『ジヴェルニーの食卓』 | 集英社 |
| 『小説乃湯 お風呂小説アンソロジー』 | 角川書店 |
| 『すべてのドアは、入口である』 | 祥伝社 |
| 『でーれーガールズ』 | 祥伝社 |

| | |
|------------------------|----------------|
| 『夏を喪くす』 | 講談社 |
| 『20の短編小説』 | 朝日新聞出版 |
| 『花々』 | 宝島社 |
| 『秘境の東京、そこで生えている』 | 東京キララ社 |
| 『美術館と建築』 | 青幻舎 |
| 『普通じゃない』 | 角川書店 |
| 『文学とワイン』 | 青幻舎 |
| 『星守る犬』 | 双葉社 |
| 『本をめぐる物語 一冊の扉』 | KADOKAWA |
| 『モダン』 | 文藝春秋 |
| 『モネのあしあと』 | 幻冬舎 |
| 『ユニコーン ジョルジュサンドの遺言』 | NHK出版 |
| 『ユーミンとフランスの秘密の 関係』 | CCCメディ アハウス |
| 『ラブコメ』 | 角川書店 |
| 『恋愛仮免中』 | 文藝春秋 |

『リーチ先生』 (集英社)



高村光雲邸の書生、亀之介は、リーチ先生の傍で陶芸家としての道を歩み始め、個性あふれる芸術家たちとの交流の中で成長していきます。本書は、民藝運動に携わった芸術家たちが登場し、改めてその志の高さに触れることができます。芸術とは、作り手の生き方そのものであることを感じる一冊です。

『ロマンシェ』 (小学館)

美智之輔は見た目クールな美男子だが、中身は100%乙女な美大生。密かに同級生の男の子に恋心を寄せている。

そんな美智之輔だったが、留学先のパリでひとりの小説家(フランス語で「ロマンシェ」)に出会い、彼の運命は大きく変わっていく。ラブコメディですが、最後は泣けます。

